

# 健診検査センターニュース

No. 426 号

## 運営委員会より

4月15日（木）平成22年度第1回の委員会を開催いたしました。

伊藤丈雄医師会長より運営委員15名に委嘱状が交付され、委員長、副委員長の選出、委員の役務分担、及び判定委員について協議され決定いたしました。

### 1. 特定健診について

① 心電図検査の追加が出来るようになりました。

今年度より65歳以上の国保や後期高齢者について、医師の判断により心電図検査が追加出来るようになりました。詳しくは送付資料をご参照下さい。

② 特定健診3月の実施件数は、下記のとおりでした。

	3月受診数	21年度累計	函館市国保受診率
函館市国保	1,550名	10,422名	18.3% (受診対象者56,860人として計算)
後期高齢者	175名	1,689名	
その他	186名	1,758名	
合計	1,911名	13,869名	

個別健診実施機関：96施設／登録機関124

年度末の駆け込みで、受診者数は昨年6月に次ぐ2番目の受診数となりましたが、市国保の受診率は19%に及ばず前年度を下回る結果でありました。

2. 22年3月の健診検査事業収入は、下記のとおりでした。

	3月（前年同月比）	4～3月累計（前年比）
一般検査収入	93.6%	93.0%
健診収入	131.9%	107.8%
合計	105.4%	98.2%

### 3. その他

① 新運営委員は、下記のとおりです。

遠藤 明、 恩村宏樹、 久保田達也、 小葉松洋子、 後藤 琢、 佐藤信清、  
白戸 勝、 鈴木勝雄、 多田正人、 富田恒一、 平山繁樹、 福德修治、  
目谷千聡、 森 研一、 山本美保、 (五十音順)

② 再雇用者1名の契約更新、臨時職員1名の採用、臨時職員1名の退職、臨時職員15名の契約更新、パート職員25名の契約更新をしました。

## 《 ちょっと一言 》

今年度より運営委員長をはじめ運営委員が数名変更になり、役務分担も多少変更がありました。

今号より、この“ちょっと一言”コーナーにて、ほんのちょっとした学術的トピックスや検査に関する話題、検査依頼のお願いや、健診のお願いや、その他のお願いやお願いなどなど・・・。

どちらかといえば、“ちょっとお願い”コーナーにした方がいいような・・・。そんなコーナーを設けさせていただきました。

何卒、御支援、御協力の程、宜しくお願いいたします。

・・・というわけで、今回は、お願い事ではなく本年度の意気込みを・・・。

その1) 「特定健診」と「がん検診」との同時実施を通し受診率のアップとユーザーサービスの向上を目指します。

その2) 事業所健診は政府管掌生活習慣病予防健診実施機関の認定を受けたので、更なる業務拡大を図ります。

その3) ユーザーサービスとしての、Web診療支援システム(WOLF)やオンライン請求を可能とする日医レセコン(ORCA)の導入サポートを推進し、ユーザー獲得を図っていきます。

上記の件に関しまして、導入をお考えや御相談は御遠慮なく、当健診検査センター(57-6571 堀)まで、御連絡ください。

次号は学術的な話題を加えてみようかな・・・?と、思っておりますので乞うご期待を!!

(文責 広報部 平山繁樹)

## MAST33 アレルゲン検査実施のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

この度、外部委託しておりました MAST33 アレルゲン検査を所要日数短縮のため、当センターで実施することになりましたので、お知らせいたします。

何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

**移 行 日** : 平成 22 年 5 月 10 日 (月) 受付分より

**移 行 項 目** : 3295 MAST33 アレルゲン

	(新)	(旧)
検査方法	ELISA (MAST) 法	
基準値	ルミカウント (LC) 1.39 以下    MAST クラス 0	
所要日数	2 日 ~ 4 日	4 日 ~ 6 日
実施料 (判断料)	1430 点 (「D015」血漿蛋白免疫学的検査の「11」) (免疫学的検査 144 点)	
備考	<p>報告書：検査報告書（緑色）と MAST 専用報告書の 2 種類をお届けします。医院保管用と患者報告用にご使用下さい。</p> <p>検査報告書（緑色）：ルミカウント (LC) と MAST クラスを LC (クラス) の様式で一行印字</p> <p>MAST 専用報告書   ：ルミカウント (LC) と MAST クラスの他にクラスのグラフを印字</p> <p>所要日数を短縮。</p> <p>溶血でのご依頼は避けて下さい。</p> <p>判定基準・アレルゲン一覧表は下記をご覧ください。</p>	

### 判定基準

判定	MAST クラス	ルミカウント (LC)
陰 性	0	0    ~    1.39
疑陽性	1	1.40   ~   2.77
陽 性	2	2.78   ~   13.4
	3	13.5   ~   58.0
	4	58.1   ~   119
	5	120    ~   159
	6	160    ~   200

### アレルゲン一覧

コナヒョウヒダニ、ハウスダスト1、ネコ皮膚、イヌ皮膚、オオアワガエリ、ハルガヤ、カモガヤ、ブタクサ混合物1、ヨモギ、スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ、ペニシリウム、クラドスポリウム、カンジダ、アルテルナリア、アスペルギルス、ラテックス、ソバ、小麦、ピーナッツ、大豆、米、マグロ、サケ、エビ、カニ、チェダーチーズ、ミルク、牛肉、鶏肉、卵白

厚生労働省により、食品の原材料表記を定められた特定原材料7品目（エビ、カニ、卵、小麦、そば、落花生、乳）全てが含まれております。

## 検査内容変更のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

この度、下記の検査項目の検査方法を変更させて頂くことになりましたので、お知らせいたします。

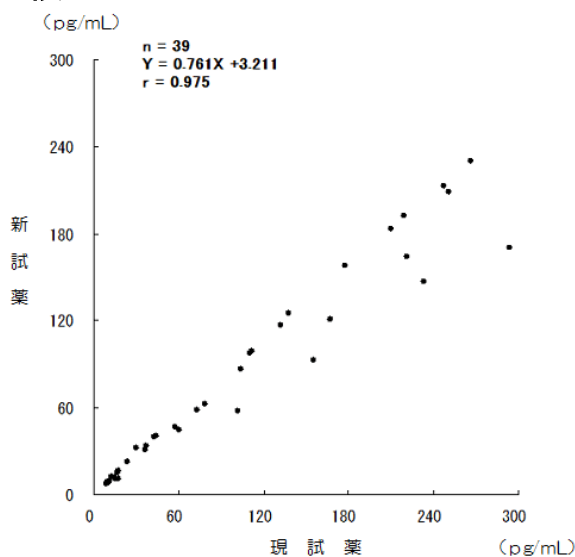
何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

**変更日** : 平成22年4月1日(木)より変更

**変更項目** : 3095 IL-5(インターロイキン-5)

	(新)	(旧)
検体量	血清 0.5 mL	血清 1.0 mL
基準値	3.9 pg/mL 以下(参考値)	7.8 pg/mL 以下(参考値)
備考	本検査におきまして、試薬メーカーにより検体量の少量化、感度の向上、プロトコルの簡易化がはかられた改良試薬へ変更させていただきます。あわせて、基準値(参考値)を変更させていただきます。なお、新参考値は、メーカー設定値(測定下限値以下)です。	

### 現試薬と新試薬の比較



**変更項目** : 2949 Hu 自己抗体

	(新)	(旧)
検査方法	ELISA	ウェスタンブロット法
備考欄	指定材料以外(血清・髄液)は受託不可です。 ELISAで陽性の場合、ウェスタンブロット法にて検査結果を確定いたします。	指定材料以外は受託不可です。
備考	測定委託先における変更のため	

## 新規実施項目のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。  
さてこの度、下記の検査項目を新規受託することとなりましたので、お知らせいたします。

何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

**開始日** : 平成 22 年 5 月 1 日 (土) 受付分より

**開始項目** : 7111 HPV 核酸同定検査

依頼方法	婦人科細胞診検査依頼書の HPV 核酸同定検査にマークしてください。 (古い依頼書の場合は、備考欄に「HPV 核酸同定検査」とご記入ください。)
検査方法	Multiplex PCR 法
採取容器	SUREPATH バイアル(10ml)
保存方法	室温
基準値	ハイリスク陰性、ローリスク陰性
所要日数	10 日
実施料 (判断料)	360 点 (「D023」微生物核酸同定・定量検査の「6」) (微生物学的検査 150 点)
備考	<ul style="list-style-type: none"><li>厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、細胞診によりベセスダ分類が ASC-US と判定された患者に対して行った場合に限り算定する。</li><li>細胞診と同時に実施した場合は算定できない。</li><li>ハイリスクグループ:16, 18, 30, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 66 型</li><li>ローリスクグループ:6, 11 型</li><li>ただし、型別判定ではありません。</li></ul>

## 婦人科子宮頸部細胞診報告書の様式変更について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、婦人科子宮頸部細胞診報告書を、ベセスダシステム 2001 準拠子宮頸部細胞診報告様式(TBS2001 準拠報告様式)に変更させていただくことになりましたので、ご案内いたします。

何卒、ご利用賜りますようよろしくお願い申し上げます。

**変 更 日** : 平成 22 年 5 月 1 日 (土) 受付分より

**変 更 内 容** :

- ・ ベセスダシステム 2001 準拠子宮頸部細胞診報告様式(TBS2001 準拠報告様式)に変更し、判定欄に検体の適否、内頸部細胞/移行帯細胞の有無および判定結果を記載します。
- ・ 従来の class 分類も併記します。
- ・ 子宮体部は従来通りの報告様式です。

**判 定 欄** :

(新)	判 定	Class II r 検体適正 内頸部細胞/移行帯細胞を認める ASC-US(意義不明な異型扁平上皮細胞)
(旧)	判 定	Class II r

## 「胃癌取扱い規約」改訂に伴う病理診断表記方法の変更について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、「胃癌取扱い規約」が改訂されました(2010年3月)。つきましては、GLab 病理解析センターにおける病理診断を新規約(胃癌取扱い規約第14版)に則した表記方法に変更させていただくことになりましたので、ご案内いたします。

何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

**変更日** : 平成22年4月28日(水) 受付分より

**変更内容** : 胃生検、手術標本、粘膜切除標本(EMR/ESD)の表記

### 【胃生検】旧 Group 分類と新 Group 分類の対比

旧 Group 分類(第13版、1999)	新 Group 分類(第14版、2010)
I: 正常組織、および異型を示さない良性(非腫瘍性)病変	X: 生検組織診断ができない不適材料 1: 正常組織および非腫瘍性病変
II: 異型を示すが、良性(非腫瘍性)と判定される病変	2: 腫瘍性(腺腫または癌)か非腫瘍性か判断の困難な病変
III: 良性(非腫瘍性)と悪性の境界領域の病変	3: 腺腫
IV: 癌が強く疑われる病変	4: 腫瘍と判定される病変のうち、癌が疑われる病変
V: 癌	5: 癌

社) 函館市医師会 函館市医師会健診検査センター  
 TEL 0138-57-6571・FAX 0138-57-6580  
 E-mail : hako-ken@sea.ncv.ne.jp